

造船 Q&A

造船所で働く人に聞いてみました



造船所で働く人たちは、どうして今の仕事を選んだのでしょうか。皆さんも、将来の仕事の一つとして参考にはいかがでしょう。

Q1 どんな仕事をしていますか？

Q2 なぜ造船所で働こうと思いましたか？

Q3 今の仕事に就くためにどんなことをしましたか？ また、どんな勉強をしましたか？

Q1 入社以来、船の構造設計を担当しています。最初は本社にいましたが、いまは造船工場で船全体を細部まで設計して、図面にする仕事をしています。

三井造船(株) 設計



なかだ もとむ
中田 元重さん

Q3 高校生くらいから理工系に興味があり、将来は設計の仕事に就きたいと思っていました。専攻科目としては、物理や数学を中心に勉強しました。

Q2 もともと、「モノづくり」に関心があり、大きなものを造ってみたいと思っていました。大学では造船工学を専攻したので船の設計ができるところで働きたいと思いました。



Q1 新造船の営業を担当しています。お客さまが希望する船について、交渉や提案を行います。また、新たに開発した船をこちらから売り込んでいくこともあります。

住友重機械マリンエンジニアリング(株) 新造船営業



はやま せいすけ
早間 聖輔さん

Q2 世界を相手にする仕事をしてみたかったです。育ったところが海の近くだったので、海や船には関心がありました。その中でも巨大な製品をつくっている造船業に魅力を感じました。

Q1 技術研究所で北極や南極の氷の海を航行できる船の研究開発をしています。南極観測船「しらせ」がよく知られていますが、この船も当社で建造されたものです。

ジャパン マリンユナイテッド(株) 研究開発



あんざい けいすけ
安齋 圭祐さん

Q3 船の研究開発にとって必要になる科目は、主に数学と物理です。大学時代には人力飛行機を造るサークルで活動していました。手づくりの作業は大変でしたが、仲間と力を合わせて一つのモノをつくりあげた経験は大きな財産になっています。

Q2 子どもの頃から機械などに触れることが好きで、「モノづくり」に興味がありました。造船の仕事は、自分でつくったものが大きな製品として形になるので、とても魅力を感じました。

(株)新来島どつく 製造部門・組立て 溶接



あべ みぎわ
阿部 みぎわさん

Q1 入社以来、船体の一部を組み立てる仕事をしています。鉄板と鉄板を「溶接」によって繋げていく作業です。溶接作業には資格が必要となりますが、経験も大事で、10年間この仕事で頑張っています。

Q2 高校の時に造船所を見学する機会があり、そこで見た巨大なブロック（船体の一部）とその大きさに感動しました。自分も船造りにチャレンジしてみたいと思いました。

Q3 高校では調理科を専攻していたのですが、自分がやりたいことではないと気づいて、全く違うものを目指すことになりました。

Q1 機関室内の「ぎ装」を担当しています。主な作業はエンジンなどの機械がちゃんと動くかどうかをチェックしたり、調整や確認をする仕事です。

今治造船(株) 製造部門・ぎ装・機関



きたぎし あやね
北岸 絢音さん

Q2 大学ではエンジンなどの機械を学ぶ機関科を専攻していて、何度か実習で船に乗る機会がありました。そこで「船を造ってみたい！」と思うようになったのがキッカケです。また、造船所でのインターンシップの経験も大きいですね。

Q3 もともと科学が好きでしたから、大学では物理を中心に勉強しました。インターンシップでは、主に設計を担当させていただきましたが、現場での仕事もとても大事だと感じることができました。

S&J 日本造船工業会

<https://www.sajn.or.jp>

一般財団法人 経教 日本経済教育センター

株式会社IHI
<http://www.ihico.jp>
今治造船株式会社
<http://www.imazoco.jp>
株式会社大島造船所
<http://www.osy.co.jp>

尾道造船株式会社
<http://www.onozo.co.jp>
川崎重工業株式会社
<http://www.khi.co.jp>
佐世保重工業株式会社
<http://www.ssk-sasebo.co.jp>

サノヤス造船株式会社
<http://www.sanoyas.co.jp>
ジャパン マリンユナイテッド株式会社
<http://www.jmuc.co.jp>
株式会社新来島どつく
<http://www.skdy.co.jp>

株式会社新来島豊橋造船
<http://www.toyo.co.jp>
住友重機械工業株式会社
<http://www.shi.co.jp>
常石造船株式会社
<http://www.tsuneishi.co.jp>

内海造船株式会社
<http://www.naikaizosen.co.jp>
株式会社名村造船所
<http://www.namura.co.jp>
函館どつく株式会社
<http://www.hakodate-dock.co.jp>

三井造船株式会社
<http://www.mes.co.jp>
三菱重工業株式会社
<http://www.mhi.co.jp>

ぎ装とは…

船内の内装工事、エンジンや航海計器など様々なパーツを取り付ける作業のことを「ぎ装」と言います。





造船所で働く人に 聞いてみました

中田 元重さん

設計

三井造船(株)



Question 4

何よりも学生の頃の夢だった設計の仕事ができることです。工場にいて、自分が設計したものが、あの巨大な船の形に仕上がっていくところを目の当たりにできるのも魅力です。そして、船を造るとき現場の苦労などがよく分かるようになりました。

Question 5

様々なお客さまに納得いただける製品をつくることの大変さを感じました。お客さまの要求や船の使い勝手をよく考えて設計する必要があるのですが、船に求める仕様などは、お客さまによって違います。良い提案であっても、相手に納得されなければ、仕事はうまくいきません。外国のお客さまとは英語でのコミュニケーションになりますので、語学面での苦労もありますね。

Question 6

これからはもっと新しい技術を活用して、より良い船を造っていきたいと思います。それには新しい情報も必要になりますし、他の造船所の最新の取り組みや関連産業の技術動向なども勉強する必要があると思います。それと語学かな…

Question 7

中学・高校ではバスケットボールをやっていました。チームプレーや健康・体力づくりといった面では、造船の工場でも役立つところがあります。

Question 8

まずは自分が関心のある仕事の現場を見にいったり、そこで働く人々の話を聞いてみると良いと思います。いまはインターネットなどで様々な情報が得られますが、自分で行動して得た知識や体験は、その後も大いに役立つはずです。

安齋 圭祐さん

研究開発

ジャパン マリンユナイテッド(株)

Question 4

自分の考えたアイデアなどが形になって実現できることです。苦労して研究した成果は、自分の名前も含めて後々まで残るので、やりがいがあります。その分、責任も感じます。そして、こんな自分でも、一生懸命に考えたことが世の中で役立っていると感じられるところですかね。



Question 5

船の研究開発の仕事は一人でやるわけではありませんので、周りの人とのコミュニケーションに難しさを感じる場合があります。自分の言いたいことがうまく伝わらないときは、やはり苦労しますね。

Question 6

コミュニケーション能力をもっと磨くことと、あとは英語力ですね。新技術の開発に関する最新情報の多くは、英語で発信されてきますので。

Question 7

中学・高校では吹奏楽部に所属して、クラリネットを担当していました。吹奏楽では演奏者全員の協調性が求められます。このときの仲間とは社会に出てからも付き合いが続いていて、他の業界の情報も聞けるので、いろいろな知見の幅が広がられます。

Question 8

中学時代の基礎的な勉強は大事だと思います。高校では文系・理系といった分野の選択が始まりますが、自分の将来の職業イメージも持って、専門的な科目にチャレンジしてほしいと思います。それから、学生時代の仲間を大切にしてほしいと思います。

阿部 みぎわさん

製造部門：組立て(溶接)

(株)新来島どつく

Question 4

女性ならではのコメントとしては、太らないことですかね。造船現場はダイエットにも有効かな。そして、何事にもへこたれない精神が身についたような気がします。

Question 5

最初は体力面がきつかったです。溶接の機械が重いので、運ぶのが大変でした。でも、今では片手で持てるようになりました。他には造船特有の専門用語があって、最初は何のことか分かりませんでした。先輩や上司が優しく教えてくれたので、今では理解できるようになりました。

Question 6

まずは体力と健康の維持。時々、筋トレをして鍛えています。そして、なんと言っても技術の向上ですね。そのためには、あきらめずに、辛抱強く、基本に忠実に技量を高めていくしかないと思っています。いまでは後輩もできたので、職場のコミュニケーションも大事な課題だと考えています。



Question 7

調理の勉強をしていましたので、健康や食事の管理ができる点は、仕事をする上でも役に立っています。

Question 8

中学校での職場体験などの機会がもっと増えるといいですね。社会や仕事のことに興味を持つきっかけになります。それから、課外活動などにも積極的に参加して、勉強では得られない体験をしてほしいと思います。目指す職業のイメージに通じていくかも知れませんが、社会に出てからの力にもなると思います。あきらめずにやっていたら、きっといい方向に向かうはずです。頑張ってください。

Question

- ④ この仕事について良かったことは？
また、仕事の中で得られたことは？
- ⑤ 仕事で大変なことは？ どんな苦労がありましたか？
- ⑥ 仕事をしていく上でさらに必要になったことは何ですか？
- ⑦ 中学・高校時代にやっていた良かったことは？
- ⑧ 中学生・高校生にメッセージをお願いします。

北岸 絢音さん

製造部門：ぎ装/機関

今治造船(株)

Question 4

大学で学んだことを実践できたこと、逆に実作業上のルールとの違いを理解できたことです。やはり机上の理論と実際の現場とは違いますからね。教科書から学ぶだけでなく、実際に体を動かして学ぶこと、どちらも大事だと思います。

Question 5

船の建造は納期が決まっているので作業が遅れると大変です。作業中にトラブルが起きることもあります。こういっただきは、仲間と力を合わせて頑張ることが大事で、何とか乗り切ってきました。

Question 6

お客さまや上司などから質問された事に対して、正確で分かりやすい回答ができるようにしたいと思います。また、他の人に仕事をお願いする時には、きちんと分担を決めて、適材適所に任せることも大事ですね。

Question 7

圧倒的に英語ですね。外国の方と接する機会も多いので、英語は欠かせません。何も本格的に学ばなくても中学・高校レベルの英語でも十分通じると思います。

Question 8

簡単に物事をあきらめないで下さい。「継続は力なり」と言いますが、辛抱強くやっていたら必ず良い結果が得られます。造船所では女性も活躍しています。造船の仕事には様々な部署がありますので、自分に合っていると思う部門を探してみてください。みなさんと造船所で会える日を楽しみにしています！



ぎ装とは…

船内の内装工事、エンジンや航海計器など様々なパーツを取り付ける作業のことを「ぎ装」と言います。



早間 聖輔さん

新造船営業

住友重機械マリンエンジニアリング(株)



Question 4

自分のイメージしていたことと同じだったのが良かった点ですね。様々な国の人と接しているうちに視野が広がっていくのを感じています。自分たちの開発した船を注文してもらった時は嬉しいものです。あとは世界中に行けることですかね。

Question 5

海外のお客さまは、文化や宗教、ビジネスの進め方や立場などが異なってきますので、それぞれに適した対応をする必要があります。海外の政治問題や経済の急変など、自分たちの努力ではどうにもならないこともあって、こういったときの対応は本当に苦労します。

Question 6

変化への対応、船に関するルールや国ごとに法律の改正などもあって、こういった変化への適応力がさらに必要だなと感じています。それから、コミュニケーション能力ですね。

Question 7

学生時代はサッカーをやっていました。チームプレーや声を出して意思疎通をすることは仕事の上でもとても大事で、チームで行うスポーツは有効だと思います。

Question 8

いろんなことに興味を持って、いろんなことにチャレンジしてほしいと思います。失敗を恐れることはありません。私はたくさんの失敗をしましたが、それらが全部良い経験となっています。

職業教育は、一定または特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度であり、「職業調べ」「職場体験」「職業講話」などを通して行われます。

ここでは、造船所で働く人々を通してこうした職業教育の一助としてぜひ参考にしてください。